

サポクラ 通信

令和4年(2022年)5月号

今月の内容は...

- ・ブチハイエナの社会性1
- ・ゾウに海外製遊具を与えてみました！3
- ・オオジシギってなんぞや6
- ・シンリンオオカミ ジェイについて10

ブチハイエナの社会性



皆さんこんにちは、ブチハイエナ担当佐々木です。

5月号は、ハイエナについてお話しさせていただこうと思います。

円山動物園で飼育しているハイエナは、ブチハイエナですが、ハイエナには他にも種類があります。

ハイエナ亜科シマハイエナ属シマハイエナ、カッシュクハイエナ、アードウルフ亜科アードウルフ（最近ではこのような分類説が有力だとされています。）

種ごとに異なる食形態や社会性を持つ面白い動物ですが、ハイエナの中でも一番分布域も広く体も大きいのが、ブチハイエナです。

他のハイエナには見られませんが、ブチハイエナはメスのほうがオスよりも大きく、陰部の形はオスと類似し、見た目で見分けるのが難しい動物です。

また、その形状から難産になることが多いです。

ブチハイエナは群れの中でのつながりも強く、社会性に長けた動物です。今回はそうしたなかでのコミュニケーション方法などについてお話しさせていただきます。



体重：約 40～85 kg （メスだと約 80 kg 近くにもなる）

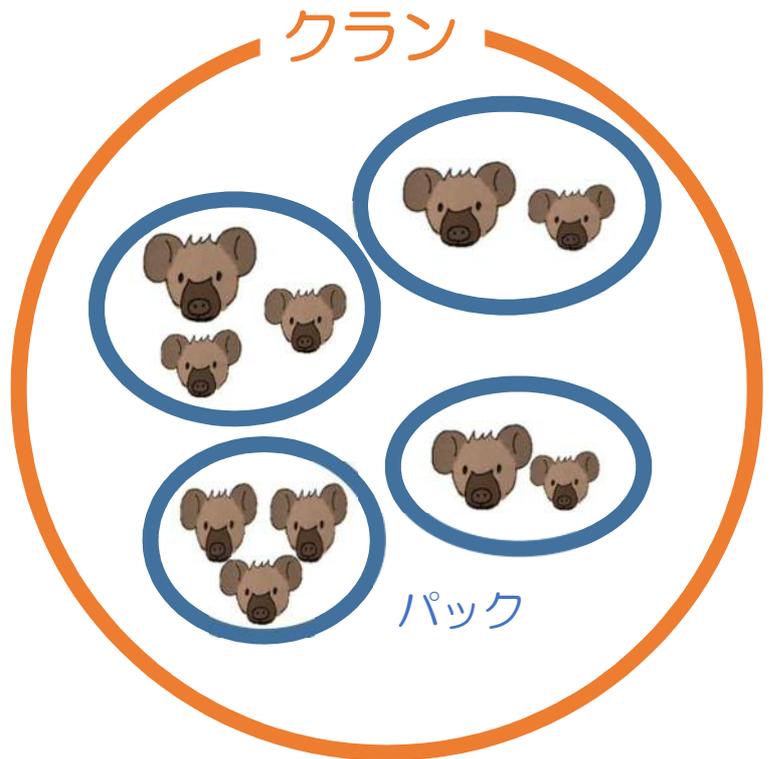
円山動物園のカミ（オス）は現在 53.5 kg

群れの構成

ブチハイエナは雌主体の群れを形成し、ペアや家族等の少数の群れ（パック）がいくつか集まったクランという数頭～約 80 頭にもなる群れを形成します。

群れ内での繋がりは強く、お互いに協力しながら狩りを行います。

ハイエナは死肉を漁ったり、他の動物の餌を奪ったりする等のイメージをもたれている方も多いかもしれませんが、実は食べている餌のうち約 6 割は自分たちでとってきたものだと言われており、優れたハンターであることが分かります。



群れ内でのコミュニケーション

群れで暮らすブチハイエナは、遠くに離れていても、仲間同士で音と匂いによる効果的なコミュニケーションを行っています。

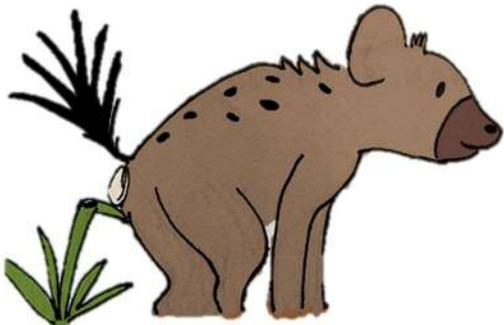
求愛、攻撃、挨拶等の用途に合わせて 12 種類の声を使い分け、笑うような声や低いうなり声は遠くて数キロ先まで届き、何度も繰り返して発せられるため発信者の位置を知るのに役立ちます。

円山動物園の「カミ」も以前 2 頭で飼育されていた際にはよく鳴いていたようですが、最近はあまり聞くことができず、私もたった数回しか聞いたことがありません。

また、ハイエナは縄張りを持ちます。野生下では、肛門付近にある臭腺からクリーム状のペーストを草の茎部分につけます。さらに糞場では排便後前足で土をかきむしり指間腺の分泌物をこすりつけます。

カミも内展示場の水飲み場の淵にペースト状のものを付けているのでぜひ見つけてみてください。

ブチハイエナは社会性に優れた動物ですが他にも様々な魅力がある動物です。ぜひ、観察しに来てみてください。



ゾウに海外製遊具を与えてみました！

サポクラ会員の皆様いつもご支援ありがとうございます。アジアゾウ担当の相田です。

今回は、ホッキョクグマ、アジアゾウ、キリンの三種合同で寄付を募集した海外製遊具の中で、アジアゾウに使用した遊具について報告させていただきます。

日本では野生動物専用の遊具を製造する業者がないため、今まで何か動物たちに遊具やフィーダーを与える際は、飼育員が道具を組み合わせで作成したり、代用できる既成のもの(ブイやペット用のボールなど)を遊具として流用したりしていました。

しかしながら、大型動物などの力の強い動物はそれなりの大きさや強度が必要となり自作では難しいこともあります。そこで実際に海外の動物園で使用されている野生動物専用の遊具を使用し、動物たちに新しい刺激を与えられればと思い、2021年6月から寄付を募集いたしました。

10月には寄付金額が目標に達しましたが、新型コロナウイルスの影響で世界的に物流が滞っていたため納品が遅れ、今年に入ってようやく待ち望んでいた商品が届きました。

今回使用した遊具は以下の3つです。



青 Dropper Feeder



茶 Rope Refuge



緑 Big Ball

はじめに青の『Dripper Feeder』と茶の『Rope Refuge』から。

青の中にはペレットを、茶の中にはニンジンなどの切った野菜など入れてゾウが振ったら落ちてくるようにしました。



はじめて見るフィーダーに最初はどのようにしてよいかわからない様子でしたが、一度触れた時にエサが落ちてくると理解すると、勢いよく振り続け、落ちてきたエサを食べていました。



続いて緑の『Big Ball』

普段はサッカーボールほどのブイをボール代わりに入れるとよく遊んでいます、ここまでの大きさは初めてなので反応が楽しみです。

まずは、シーシュ（オス）とパール（メス）の様子です。

普段の性格からシーシュはドーンと体当たりをするのかと予想していましたが、意外にも優しく転がして遊んでいました。パールもシーシュが遊んでいるのを羨ましそうに横で見ている後、隙を見てすぐにボールで遊んでいました。



次に、シュティン（メス）とニヤイン（メス）。

2頭ともボールを見つけるとすぐに近づいていきましたが、ニヤインはこれまで見たことのない大きなボールが怖かったのか、何度も大きな声で鳴き叫び、それを見たシュティンも鼻をポンポン鳴らす警戒音を発しながらボールに強くアタックしていました。



しばらくすると落ち着き、楽しそうに遊びだしましたが、ボールはへこんでしまい、ゾウの力強さに改めて驚かされました。



このようにゾウ達は全ての遊具で活発な姿を見せてくれました。これも皆様のご支援があってこそだと思っております。改めてお礼申し上げます。

引き続き円山動物園をよろしくお願いいたします。



オオジシギってなんぞや

円山動物園サポートクラブの皆さま、いつもご支援ありがとうございます。
コツメカワウソ、アカハナグマ、オオジシギ、シロテテナガザル担当の今井です。
円山動物園では昨年11月から、2羽のオオジシギを飼育展示しています。
今回は今が見頃(?)なオオジシギについてご紹介したいと思います。

オオジシギって何？

いきなりオオジシギと言われても、
そもそもどんな生き物か想像もつかないという方も多いかもかもしれません。
オオジシギは、シギ科タシギ属に分類される鳥です。
色味こそ地味ですが、かなりユニークな体のつくりをしているため一度見たらかなり印象深い、
そんな見た目をしています。
来園した直後から熱帯鳥類館で展示を開始していたので、見に来ていただいた方もいるかも知れませんが、まだ見たことがない方のためにまずはオオジシギの全身写真から・・・



どうですか？なかなか特徴的な見た目をしていませんか？
実はこの特徴的な見た目にもしっかりと意味があるのですが、それは一旦置いておきます。
まずは基本的な生態をご紹介します。

オオジシギはどこにいるの？



オオジシギは夏に北海道や本州の標高の高い草原、サハリン南部で繁殖し、冬はオーストラリアで越冬をする渡り鳥です。
春と秋の渡りの時期には日本各地の田んぼなどで観察されます。
全長 30 cm のこの鳥がオーストラリアまで飛んでしまうというのは驚きですよ。
実は北海道は繁殖地という事もあり、
比較的オオジシギを観察しやすい場所なんです。
なんと札幌でもその姿を見ることができます。

どうやって見つける？オオジシギ



意外と身近な鳥だということをグイグイ押していますが、オオジシギは漢字で書くと「**大地鳴**」。その名の通り地面にいることが多く、主に夜に活動をする、さらに体の色も相まってなかなか探すのが難しいんです。

しかし、ある時期になるとオオジシギを簡単に見つけることができます。

それがまさに**今、5月**です。

オオジシギのオスは繁殖期になると、なわばりの主張のために、ディスプレイフライトを行います。ディスプレイフライト中「**ジェツジェツ・ジェズビャーク・ズビャーク**」と大きな声で鳴きながら飛び回り、時折尾羽を広げて急降下します。



この時の音が雷の音のように聞こえることからカミナリシギと言われたりします。

(ちなみに私は雷の音というより F1 の車のような音に聞こえます。)

このディスプレイフライトの音はかなり大きいので音のする方向を探すとオオジシギを見つけることができます。私も先日札幌市内で野生のオオジシギの観察をしてきました。

本州出身者からするとオオジシギのディスプレイフライトをこんなに身近な場所で観察できるなんて夢のようです。



👉 オオジシギはどこにいるでしょうか

なんで円山動物園にオオジシギ？

実はこのオオジシギ、今生息数が減ってきていると言われています。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種（NT）に指定され、北海道のレッドリストでは希少種（R）、札幌市版レッドリストでは準絶滅危惧種（NT）にしていされています。



札幌は人口 190 万人以上の大都市でありながら、多くの野生動物が暮らす場所でもあります。札幌市ではそんな札幌らしい自然環境に生息・生育する代表的な動植物を「指標種」として選定しています。

オオジシギは草原を代表する鳥としてこの指標種に選定されています。

また、オオジシギの生態は未だにわからないことが多く、渡りのルートや正確な生息数などもわかっていません。

このようなオオジシギの現状を伝えるために、釧路にある猛禽類医学研究所で保護されたオオジシギ 2 羽を引き受けることになりました。

円山動物園での今後の取り組み

動物の生態や野生下での現状を伝えるのはもちろん、飼育下でしか得られないデータを集積し、研究者と連携を取りながら生態の解明に繋げることも動物園の重要な役割です。

オオジシギについても今後は日照時間や室温などを調整して繁殖期の行動の変化を観察したり、換羽のタイミング、虹彩の色の変化などを継続的にモニタリングし基礎生態に関するデータを集積していきたいと思います。



2羽の性別はまだ分かりませんが、オスメスであれば繁殖にも挑戦したいと思っています。



オオジシギの体の不思議などまだまだたくさんお伝えしたいことがありますが、また次の機会にご紹介できればと思います。

謎の多いオオジシギ、絶滅の危機に立たせないためにも多くの人に知ってもらうことはとても大切なことです。

オオジシギがいつまでも札幌に飛来して繁殖ができる環境を残すために私たちにできることを皆さんに考えていただけるように、これからもオオジシギの興味深い生態などについて発信して参ります。

最後に、、、

円山動物園にやってきたオオジシギのうち1羽は雛の時に、人工物に迷い込んでしまい、親とはぐれたため保護されました。



人に育てられたので外敵への警戒心など自然界で身につく力を身に付けることができなかつたため、終生飼育という判断になりました。

シギ類の雛を育てるのはとても難しいことですが、野生で生きていく力が身に付くように育てることはそれ以上に大変です。

この個体は収容先の職員さんのご尽力のおかげで無事に生育しました。

これからこの個体を通じてたくさんの人がオオジシギに興味を持ってくれることを願っています。

5月になり、円山動物園の敷地内にもたくさんの夏鳥が繁殖のために渡って来ました。



キビタキ

これからの季節まだうまく飛べない巣立ち雛を目にするかも知れません。

多くの場合、近くに親鳥がいるので

「地面にいてかわいそうだから」

「飛べなくてかわいそうだから」

という理由で間違っただけで連れて帰ったりせずに、

距離をとって優しく見守りましょう。



ハクセキレイの若鳥



飼育4班

円山動物園サポートクラブのみなさま、いつもご支援ありがとうございます。
チンパンジーと4月からヒグマも担当になりました、高岡です。
今回は5月3日に死亡したシンリンオオカミの「ジェイ」について、
これまでの治療の経過や寝室療養中の様子などをお伝えします。

「突然の症状再発、二度目の復活」

2021年9月号のサポクラ通信では、昨年4月に脊椎炎を患い、その後の復活についてお伝えしました。あれから半年間、小さな不調はあったものの、年齢を考慮してもかなり元気に過ごしていました。ここ数年と比較して日中寝ている時間は長くなっていましたが、いつもどおり放飼場内を探索したり、職員を見つけると餌の時間だと気づいて小走りになったりすることもありました。



1月中旬頃の様子。職員を見つけると、せわしなく動き始めます。

ところが、春先の暖かくなってきた頃の朝、ジェイの様子を見に行くと、いつもなら朝の餌の時間を待ちわびたように展示場のガラスの前を行ったり来たりしているはずが、スロープの下で丸くなったまま、起きてきませんでした。心臓が止まる思いですぐに獣医を呼び、双眼鏡を片手に観察したところ、なんとか呼吸は確認出来ました。その後ようやく起き上がったジェイですが、頭が傾き、ふらついてまるで目が回っているような歩き方でした。幸い寝室に餌を置いて呼ぶとすぐに入ってきてくれたため、その日から寝室で安静にしてもらうことになりました。

獣医の診断は、脳の中樞神経系からくる症状とのことで、神経の炎症を和らげる薬や、神経の働きを助けるビタミン剤、吐き気止めなどを処方してもらいました。イヌであれば命に関わるほどの重度の症状がみられていましたが、3日ほど経つと食欲が徐々に回復し、その後は獣医も驚くような回復を見せてくれました。

最初に歩けなくなってから約二週間後には室内をしっかりとした足取りで歩けるようになり、少し狭いサブ放飼場で歩行のリハビリを始められるようになりました。天気の良い日には最初は1時間、その後は2時間、3時間と日に日に外で過ごし、歩く時間を長くしていきました。春の暖かい日差しのもとで、外の風にあたりながら昼寝をする姿は本当に気持ちよさそうで私たちも安心しました。



約3週間ぶりの外でリハビリ。



日差しの届く日はぐっすり昼寝しました。

「症状の悪化と長期療養」

しかし、サブ放飼場で歩行のリハビリを繰り返す途中で症状が悪化し、再び自力で立ち上がることが難しくなっていました。後肢の力が入らず、前肢だけで踏ん張って立ち上がろうとしますが、脚がすべってしまい、とても労力を使っている様子でした。担当者と獣医が檻の隙間からホウキの柄などでお腹を支えてようやく立ち上がることができましたが、すぐに疲れて座ってしまいます。獣医によると後肢が麻痺しており、もう自力で立ち上がる事は難しいだろう、という判断でした。このまま寝室で過ごせば床ずれが起きたり、自分の排泄物で身体が汚れてしまったりしてケアができないため、ジェイを寝室から出し、四方を壁で囲まれた前室(寝室と調理場の間にある部屋)で飼育することにしました。

ジェイが高齢で後肢が麻痺していたとしても、オオカミは人に危害を加えるおそれがあるとして「特定動物」に指定されています。私たち飼育担当者や動物園の獣医であっても、一瞬の油断で大けがをする可能性はあります。しかし、私たちが十分に注意したうえで、ジェイが自力で採食し、生きる力がある限り出来る限りのケアをしていくことにしました。



寝室での様子。食欲はあります。



処置や掃除がしやすい広い前室へ移動しました。

それからは、食欲がある日は馬肉や牛肉を給餌、無い日は水分やビタミンを補給するために皮下補液を実施しました。前室の床には床ずれができないように人工芝を敷き、毎日複数回の体位変換を行い、尿で汚れた身体の洗浄や薬の塗布を行いました。それでもやはり、立てなくなって2週間ほど経過する頃から徐々に、一番出っ張っている腰骨の辺りに床ずれが出来始めます。床にマットレスを敷いたり、犬用のオムツを履かせて腰骨部分にガーゼを当てたりするなど、なるべく痛みの少ないよう配慮しました。



また、床ずれ部分から細菌感染を起こさないように薬も塗布しました。元気がある日には肉を少量食べたり、水分補給に用意した雪をかじったり、前肢だけで立ち上がって休む姿勢になることもありました。治療のために体を触ると、怒って職員を噛もうとすることも度々ありました。それでも次第に寝返りをうったり、口元に餌を差し出しても食べなくなったりと、活力は低下していきました。治療に抵抗する力も徐々に衰え、最期は担当者や獣医によるケアを受け入れるかのようでした。

そんな中、まったく食欲がなくなって2日ほど経った日、飼育担当者が呼吸を確認したわずか10分ほど後、獣医が死亡しているのを確認しました。床ずれや時折荒い呼吸の様子から決して穏やかだったとは言えませんが、痛みや苦しみながらの最期ではなかったことを、幸いに思っています。

長い間ジェイを応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

なお、ジェイの子の「ユウキ(オス、11歳)」はとくしま動物園、同年生まれの「ショウ(オス、11歳)」は平川動物園で元気に暮らしています。



写真:2015年

「チンパンジーのお楽しみ」

チンパンジー館の大展示場に、このたび新たなアイテムが設置されました。
一見何の変哲もないただの金属の箱ですが、中を開けると何か入っています。



この箱の正体は小さな疑似「アリ塚」です。中には、水で溶いたはちみつが入っています。

チンパンジーは野生では果物をはじめ樹木の枝葉やアリを含む昆虫、はちみつなど様々なものを食べます。その中で、アリやはちみつを食べるときに頻繁にみられるのが「道具の使用」です。私たちが身近で見かけるアリはほとんどの種が地中に巣を作りますが、アフリカでは地上に塚を造ったり、樹木の洞に巣を作ったりするアリがたくさん生息しています。チンパンジーたちは土で作られたアリ塚を少しずつ壊して土ごとアリを食べたり、木の洞に枝を挿し込み、枝に噛みついたアリを食べたり（「アリ釣り」と呼ばれています）、木の洞に作られたハチの巣に枝を入れてはちみつを絡めて採ったり、それぞれの状況にあわせて細い草や長い枝などを器用に使い分けることが知られています。

円山動物園にも屋外放飼場に人工アリ塚が設置してありますが、冬は中身が凍結してしまうため夏季限定で使用しています。（写真右：アリ塚を使用するチンパンジーたち）

そこで今回は、屋内で過ごす時間が長くなる冬にも使用できるように屋内展示場にもアリ塚を設置することにしました。施設の設計上設置できる方法や場所が限られていることや、チンパンジーの握力や腕力に耐えられる構造でなければならないことから試行錯誤を繰り返し、ようやく試作1号が完成しました。お昼頃と閉園前の2回、大展示場のミニアリ塚にはちみつ水をセットしています。チンパンジーたちが器用に枝を使ってはちみつ水を飲む様子を、ぜひ観察してみてください。

